



2017年3月6日

報道関係者各位

慶應義塾大学

## 慶應義塾大学工学部とフランス原子力・代替エネルギー庁が 情報通信分野での国際連携協定を締結 ～日仏最先端国際研究連携を拡充～

慶應義塾大学工学部は、フランス・グルノーブル市のフランス原子力・代替エネルギー庁 (Commissariat à l'énergie atomique et aux énergies alternatives(以下、CEA))との間で、情報通信分野での国際連携協定を2017年1月13日に締結しました。

CEAは、1945年に設立されたフランス政府機関で、10の研究センターを持ち、その構成スタッフ数は約16,000名にも上ります。情報通信、エネルギー、健康、イノベーションマネジメントを主要リサーチ分野とし、予算規模は41億ユーロ、優先権出願特許分野は753を数え、米トムソン・ロイター「Top 25 グローバル・イノベーター：国立研究機関」の調査において世界1位(2016年3月発表)という評価を得ています。

慶應義塾大学工学部とCEAの間では、国際的研究機関である国立科学研究センター (Centre National de la Recherche Scientifique (以下、CNRS))を加えた三者間での「マイクロ・ナノテクノロジー」分野での5年間の国際連携協定を2014年9月22日に締結しており、研究開発、人材育成および産業振興等に関し連携を深めております。この度、「マイクロ・テクノロジー」分野のみならず「情報通信技術」分野およびその応用領域においても研究連携を推進したいという双方の意向が合致し、新たな連携協定締結の運びとなりました。

今回の研究連携協定により、CEAが重要視し推進している、情報通信技術を駆使した製造業の革新“Industry4.0”、社会システムやインフラにもIoTを活用したスマート社会を実現する“Society5.0”の推進力を得て、IoT、暗号化、センサネットワークなどの連携、とりわけ今後期待されるスマートシティ、スマートコミュニティ領域での展開を進めて科学・産業の発展に貢献することを目指します。

協定に基づく連携協力事項としては、情報通信の共同研究分野においての定期会合の開催や研究者等の相互派遣により連携を進め、関連する技術情報・学術情報の交換を行い、共同研究を推進してまいります。連携推進の体制としては、慶應義塾大学工学部および環境情報学部とCEA双方の研究者で研究グループを構成し、協同事業の実施状況の管理や主要研究課題の選定、共同研究・開発プロジェクトの進捗状況の管理を行います。

今後も引き続き、同機関との研究連携の実績を積み上げ、日本・フランス間の最先端国際研究連携拠点の形成に寄与することを目指してまいります。

\*ご取材の際は、事前に下記までご一報下さいますようお願い申し上げます。

\*本リリースは文部科学記者会、科学記者会、各社科学部等に送信しております。

本発表資料に関するお問い合わせ

慶應義塾広報室(竹内) Tel: 03-5427-1541 Fax: 03-5441-7640

E-Mail: m-koho@adst.keio.ac.jp